



愛郷無限

2014年08月12日号 NO.524

写真提供:大仙市

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：大仙市コミュニティFMラジオ「FMはなび」開局！

8月8日(土)、大仙市のコミュニティFMラジオ局【FMはなび】が開局しました！何年か前のドヤツでもお伝えした通り、東日本大震災での公的・私的情報伝達システムが脆弱だったことが様々な混乱を招いたという反省から、3年前に【大仙市に地域ラジオ局は必要か？】を検討する官民若手が一緒になった委員会が立ち上がって以降、足かけ&苦節3年、ようやく開局の日を迎えることができました。

巷の反応はとても良いです。予想を超える多くの方が日々の話題にされたり、聞いたよ！と声をかけていただけます。

自分自身でも番組を聴きながら色々な気付きがありました。地元の新聞では催事などは結果報告がほとんど。しかも小さな地域の小さなことはなかなか取り上げてもらえません。一方、コミュニティラジオは事前告知が多く、小さなことでも当事者が声で参加して伝えることが出来る。熱と想いが伝わってくるのです。また行政担当者も頑張っており、公的な連絡事項も含め、普段の広報紙などでは見逃しているような事項も耳からなら自然と入って来ます。災害時の連絡網としての効果が注目される面が多いですが、本当のところは以下のような目的の方が大きいということも皆さんに是非知っておいていただきたいのです。

◆寂しい方・弱い方へ【声】を届ける

独居老人や老々世帯、自宅からあまり外に出ない人などへ、ラジオを通して貴方は誰かと繋がっているのだから大丈夫という安心感を持って欲しい。高齢の方は読み物を面倒がって見ないことが多い。大切な情報を聞き逃さず、ちょっとした興味・好奇心を持って、ちゃんと誰かと繋がっていて欲しい。直接的な公的ケアだけではない、間接的ではあっても声で繋がるということには命を守るための大きな効果があります。何よりも大事なものは【命】です。

◆地域間の情報壁を低くする

合併して大仙市となって10年。とても広いエリアであることから、全員が各地の情報をタイムリーに入手することは難しく、また意識的にもまだまだ壁が高いのは事実。その根本的な原因は【知らない】ということ。ラジオを通じて、各地のコト・モノ・ヒトをどんどん流すことで、もっと身近に感じられるようになれば、さらに一体感を持った意識連携に繋がるはずです。

◆沢山の人が運営にかかわる 人材育成と新しい人的な輪と和の形成

ラジオ局の運営にはお金がかかります。スタジオやアンテナ塔などの初期投資はもちろんですが、維持経費も年間数千万円の費用がかかります。だから従業員は簡単に増やせ

ない。そんな少ない従業員が開局以来連日、早朝から深夜まで頑張っています（ラジオ局の仕事とは、ただ喋っていれば良いのではなく、情報を仕入れ、企画を考え、関係者の調整を行い、スポンサーを探しお金を集め、原稿を作り収録するという多岐にわたる業務があります）。

大仙市には小さくとも素晴らしい活動が続いている個人・団体が沢山あります。そんな人達が情報発信だけでなく、運営にもちょっとずつ協力してくれれば、各々の活動内容が日の目を見たり、多くの方に認知してもらったり、つながり合っただけで連携したり出来るはず。これはとても素晴らしいPPP（公民連携）に繋がるはず。今まで我々が街は連携に乏しく、地域の壁で分断されすぎていた。互いに知らなかった、知り合う機会、繋ぐヒトに恵まれなかったのだと思います。FMはなびはこれらの繋ぎ役として素晴らしい効果を発揮してくれるはずと私は確信しています。

沢山のボランティアが放送や運営に携わってくれることで、同時に経営経費を最小限に抑えての運営が可能になることも重要です。長く続けていくことを考えればこれほど大切なことなのです。

素人で経験なくたって、話が下手くそだって、訛っていたって全く問題ないのです。おらほの街のラジオなんだから。兎にも角にも【敷居】を低く、格好を付けず！

興味有る人はどんどん・様々な形で携わって欲しいものです。

大仙市民は全員一度はラジオに出たことがある！ そんな局にしていきたいのです。

大曲納豆汁旨めもの研究会や、大曲商工会議所青年部でも30分番組を制作から運営まで担当することになり、若い衆が中心となってあれこれ準備しながら、先日、各々の第1回放送を無事に終えました。素人にだって出来るのです。

興味があるヒトは老若男女にかかわらず、どんどん加わって欲しい。

個人だけでなく、学校・企業・団体・小さな集まりなどでも構いません。

また参加することが出来ない場合は、投稿ハガキやメールでメッセージを送ること。或いはサポーターとして少額で構わないので寄付をすること。商売をしている。会社を経営している方はPR広告を出してくれてもいい。色んな関わり方がありますよね。

FM花火は市役所がやっていることだから私達には関係ない、ではないことを理解いただきたいのです。みんなで関わり、みんなで育て、みんなで愛する媒体にしていかなきゃならないものです。

最後にもう一点。

既に沢山の一般市民ボランティアが運営に参加し始めています。40～60歳代の女性パーソナリティ（様々な情報を喋る人）は素人であっても果敢に挑戦してくれています。

20～40歳代の若者達もそう。しかし、60歳以上の男性陣の姿がほとんど全く見られません。これは以前ののびのびらんのボランティアの件でも伝えたことですが、日本の典型的な風景でもあります。

中高年の男性陣の参加を熱烈に歓迎したいのです！

やれることは色々ありますよ。

是非是非お待ちしております。